

# 大きな蝙蝠傘

竹久夢二

青空文庫



それはたいそう大きな蝙蝠傘でした。

幹子は、この頃田舎の方から新しくこちらの学校へ入ってきた新入生でした。髪の毛も着物も、東京の少女に較べると、かなり田舎染みて見えました。けれど、幹子はそんな事を少しも気にかけないで、学科の勉強とか運動とか、つまり、少女のすべきことだけをやってのけると言った質の少女でした。たとえば青い空に葉をさしのべ、太陽の方へ向いてぐんぐん育つてゆく若木のようにのんびりした少女でした。

それにしても、幹子が毎日学校へ持つてくる蝙蝠傘は非常に大きなもので、忽ち学校中の評判になりました。

どこの級にも、頓智があつてたいへん口が軽く、気の利いたことを言つては皆を笑わせることの好きな愚かな生徒が一人や二人はあるものです。幹子の級にも、時子と朝子という口のわるい生徒がありました。

ある日、幹子は学校へゆく途中で、この口のわるい連中に出会いました。むろんこの時、幹子は例の蝙蝠傘を持つていたので、忽ちそれが冷笑の的になりました。

「あら何処の紳士かと思つたら、幹子さんだつたわ、幹子さんお早う」

時子ときこが言った。なるほど幹子の蝙蝠傘は、黒い毛繻子張けじゆすばりで柄の太い大きなものだから、どう見ても、祖父様おじいさんの古いのをさしたとしか見えませんでした。事実またそうであったかもしれない。この場合「何処の紳士かと思つたら」というのは、ほんとに適評だったので、皆はどつと笑いくずれました。

幹子も一緒になつて笑いながら「お早う」と挨拶あいさつして、つまらないお友達にかまつてはいられないと言つたように、さつさとそこを通りぬけて、まっすぐに学校の方へ歩いた。「あのくらい蝙蝠傘が大きかつたら日にやけないで好いわね」

「ええ、だから幹子さんは、お色が白いわよ」

そう言つて冷笑しているのも幹子の耳へ這入はいつた。けれど幹子は何を言われても平氣でいた。

「でも幹子さんの田舎いなかじゃあれでたいへんハイカラなのかも知れないわ」

「そうね。私はこう思うの、幹子さんのお父様はきつと薬屋さんに違いないわ。だから幹子さんをいまに薬くすり売うりにするんだわ。ほら、よく薬売があんな大きな蝙蝠傘をさして来るでしょう。「本家、讃岐さぬきは高松たかまつ千金丹せんきんたん……つて歌つて来るじゃないの」そう言つて時子は、面白く節をつけて歌つて見せた。

「そうよ、そうよ」

「きつとそうだわ」

と口口に言うのでした。

この時、幹子は静かに気にもかけないような風で振返りながら、

「私が薬屋になったら、好い薬よを売つてあげますから、安心していらつしやいな」

幹子は、笑いながらそう言つて、すたすたと行つてしまった。

そう言われると、口のわるい連中も、さすがに何も言えないで黙っていた。

それから四五日してから学校の授業中、俄にわかに雨が降りだして、授業の終る頃ころには流れる

ように降つてきた。

今こそ、この冷笑の種になつた大きな蝙蝠傘が役にたつ時が来た。

幹子は、時子や朝子あさこが、小さな美しい蝙蝠傘を持ってあましているのを見かねて、

「皆様この中へ這入つていらつしやいな、大きいからみんな這入れてよ」

三人は仲よく、大きなハイカラな蝙蝠傘のお蔭かげで、少しも雨にぬれないで家うちへ帰ることが

が出来たのでした。



# 青空文庫情報

底本：「童話集 春」小学館文庫、小学館

2004（平成16）年8月1日初版第1刷発行

底本の親本：「童話 春」研究社

1926（大正15）年12月

入力：noir

校正：noriko saito

2006年7月2日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

# 大きな蝙蝠傘

竹久夢二

2020年 7月18日 初版

## 奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail [info@aozora.gr.jp](mailto:info@aozora.gr.jp)

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>  
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。  
<http://tokimi.sylphid.jp/>